

教学半也



令和6年10月4日
No.10

令和6年度 地域連携・協働フォーラム



8月29日(木)の地域連携・協働フォーラム(学社連携・協働意見交換会)では、137名の皆様にご参加いただきました。講演会・分科会ともに、「地域ぐるみで子どもを育てる」ために一人一人ができることについて考えるきっかけになり、充実した研修の場となりました。

全体会



全体会では上田市立北小地域コーディネーター・信州型CSアドバイザーの伴美佐子さんに『「楽しむ」から始まる学校を核とした地域づくり』というテーマで、ワークショップと実践発表をしていただきました。ワークショップ「クロスロード」では、答えのない問いに対して、対話することで自分なりの答えを見つけしていくことを体験しました。実践発表では、伴さん自身が関わる上田市立北小学校をはじめとした様々な学校と地域の連携事例を紹介していただきました。

【参加者の声(全体会)】

○演習主体で楽しく学べました。上田市立北小学校の事例、とても素晴らしいですね。素敵です。私は今年社会教育委員になったばかりで中学校でもボランティアも始めたばかりですので、今日の学びを少しずつこれから活かしていきたいです。

6つの分科会では、様々な立場で社会教育・子ども支援等にかかわっている皆さんから話題提供をいただき、とても有意義な情報交換が行われました。

【参加者の声(分科会)】

分科会①【CS“わちゃわちゃ”お悩み相談室】 伴美佐子さん
どの方(団体)も「やさしさ」「放っておけない想い」をもとに、自分たちができることを具現化して、生き生きと活動されていて素敵だと思いました。

分科会②【Sketch!しあわせなんこでもつくれるよ】 富岡史棋さん
イメージを形にしていくこと、心の声を聞いていくこと、とりあえず形にしてみるなど、新たな視点をいただいたように思いました。富岡さんの取り組んでいることに共感を覚えました。

分科会③【「駅前で何する？」UTプロジェクト】
小島亜矢子さん、高校生

子どもの居場所を提供する大切さを知りました。UTの中で子どもが活動して成長されていることを発表中で感じました。自分よりもプレゼン力が段違いにある高校生たちでした。

分科会④【高校生が本物の結婚式をプロデュース】
城村義人さん、元メンバー

協働の鍵「土台を決める」、確かに表層(見た目、形、出来栄)にとらわれていた。その場限りの力ではなく、人生を支える土台を、大人の私こそしっかり持つべきだと気づかされました。

分科会⑤【未来への投資(コミュニティカ)】 平澤正貴さん

自分たちで収益を上げて運営する厳しさがありますが、様々なアイデアを出して乗り切っていくという姿勢に感動しました。こういう子どもの居場所がある事は素晴らしい。

分科会⑥【公民館、これからどうする?(どうなりたい?)】
上田 拓也さん、木川 亮一さん

よく調査された発表で、とても参考になりました。公民館のこれからを考える人が地域の中で少なくなってしまうことが問題だと思います。

分科会



フォーラムにご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

すべての
先生を対象

『全国学力・学習状況調査 授業アイデア例』を有効活用しよう

「授業アイデア例」は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして、平成21年度より作成され、学校や教育委員会などに配布されているものです。

令和4年度から、授業の改善・充実に資するよう、これまで別途作成していた「授業アイデア例」が報告書の中に掲載され、調査結果の課題分析と課題の解決を図る事例が一体的に示されています。

「授業アイデア例」は、日々の授業や研修会など様々な場面で活用され、児童生徒の学習状況の改善につながることを期待されています。国語、算数・数学だけではなく、他教科の授業改善につながるヒントも書かれています。その中から一部を抜粋して、紹介します。



「令和6年度
全国学力・学習状況調査 報告書」



報告書内の授業アイデア例とは、どのようなものが掲載されているのですか？

指導事例③ 学習を振り返り、理解を深める場面

◇ 森川さんたちの学級では、交流後に、自分たちの交流の様子を振り返ることにしました。

教師 町の魅力について交流してみてどうでしたか。実際の様子を記録した動画^(注)を見ながら、気付いたことを話し合います。
(注)実際のやりとりを同クラスの児童がタブレット型端末で録画記録

Aグループの場合 メモに情報を整理したことよさへの着目

予想していない質問をされたときに、メモを見返して答えていたところがよいと思ったよ。

そうだね。メモに情報を整理していたから、複数の情報をまとめて伝えることができたと思う。

情報の整理について、大事なところに気付いているな。実際の場面でも使えるように、掲示物にまとめて、教室に貼っておこう。

課題が見受けられた設問の出題の趣旨、学習指導要領の指導事項と共に、実際の授業構想や学習場面での「教師の発問」や「予想される子どもの姿」が書かれています。イラストも取り入れられ、実際の授業の場面もイメージしやすくなっています。



各教科等に応じた見方・考え方が働くような教師の発問や、見方・考え方が働いた子どもの姿(発言・記述等)がイメージできず、困っています。そのような例も掲載されていますか？

証明を振り返り、統合的・発展的に考察する場面

2つの証明を見比べて、<条件>を変えても変わらないところ、<条件>を変えたことに伴って変わったところを挙げ、気付いたことを話し合ってみましょう。

正方形に変えても同じように三角形の合同を根拠にして $AQ=PB$ が示せたね。

①、②は、正多角形の辺の長さが等しいことを使っているのが同じだね。

③の根拠は、正三角形と正方形の場合で違っているね。正五角形の場合の証明はどうなるのかな。

③の根拠は、正多角形の外角とみると同じように考えることができるね。

今日は前時の授業で証明したことについて、<条件>を変えて考察しました。授業で分かったこと、大切だと思った考え方を端末に書いて共有しましょう。

【振り返りを書いた生徒の端末】

正三角形のときと正方形のときで形が違うのに同じように証明することができて驚いた。同じような証明になるのは、正多角形の辺や内角がそれぞれ等しくなることが関係しているそうだった。正五角形に変えても、同じような証明になるか調べてみたい。また、図形の形以外の条件を加えた場合についても考えてみたい。

正三角形のときに成り立ったことが、正方形に変えても成り立つことが分かった。証明を比べてみると条件を変えたときに2組の辺が等しいことは変わらないけれど、間の角が等しい根拠は変わらなっていた。友達の話聞いて、間の角が等しい根拠も見方によっては変わらないことに気付いて面白かった。

例えば、【中学校数学】では、証明を振り返り、統合的・発展的に考察する場面例が掲載されています。

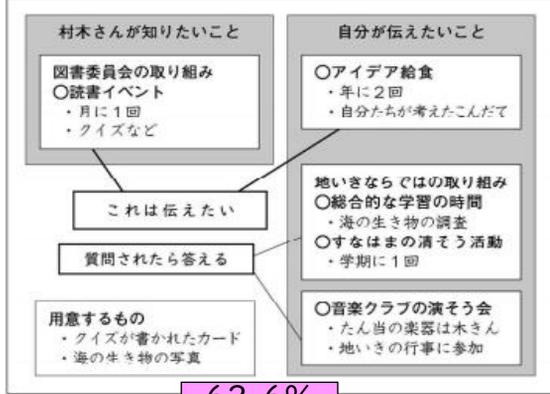
統合的に考えられるよう『<条件>を変えても変わらないところ』と発問し、発展的に考えられるよう『<条件>を変えたことに伴って変わったところ』と発問することで、互いに気付いた点を話し合う場面で、より焦点化した考察が生まれることが例示されています。

また、このような手立てが生徒の振り返りの内容にもつながることが例示されています。



学校訪問でも、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善に役立てようとする学校が見られます。そのように、できるところから、一步一步授業改善をしていくことが、子供の学びにつながっていきます。自校の子供たちの様子をよくみとり、調査結果・分析と繋ぎながら、子供に合った授業改善を進めていきましょう。

【和田さんのメモ】



62.6%

- 1 おたがいの学校の取り組みのよい点を比べて、伝えることを明確にした。
- 2 おたがいの学校の取り組みの問題点を比べて、伝えることを明確にした。
- 3 **相手を知りたいことを取り入れて、優先して伝えることを明確にした。**
- 4 自分が知りたいことを取り入れて、優先して聞くことを明確にした。

7.5%

7.8%

21.2%



一 和田さんは、「和田さんに届いたメールの内容」を受けて、しよいかいする内容を、次の「和田さんのメモ」のように整理しました。和田さんは、どのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

この問題の正答は選択肢3ですが、選択肢1を選んでしまった児童が、21.2%います。どうして、選択肢1を選択してしまったのでしょうか。



選択肢1を選択してしまった児童は、【和田さんのメモ】に書かれた「自分が伝えたいこと」と「村木さんが知りたいこと」をお互いの学校の取り組みのよい点と捉えてしまった児童や、それらが並べて書かれていることで比較していると捉えてしまった児童がいたと考えられます。



なるほど。では、どのような点が課題なのでしょう。また、その課題はどのような授業を実践することで解決していけそうでしょうか。



伝え合う内容を検討する際に、目的や意図に応じて優先順位を考えるなど、集めた材料を関連付けていくことがポイントです。次のような授業アイデア例を参考に日常の授業改善をしてみましょう。



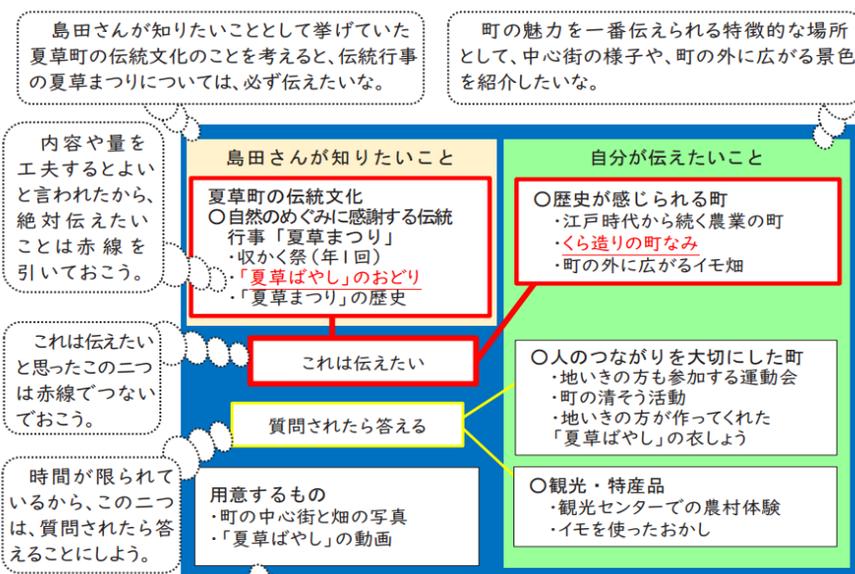
授業アイデア例

「春花小の6年生と町の魅力を紹介し合おう」

～目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する～

目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う内容を検討する場面

【学級の友達からのアドバイスを踏まえて、メモを修正する森川さんの様子】



集めた材料を話す目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることができましたね。実際に交流する場面をイメージして必要に応じて提示する資料を準備しておきましょう。



教師

【本授業アイデア例のポイント】

話題を決める場面では、児童の願いや課題をもとに話し合い、様々なアイデアを出しながら伝え合う内容を検討できるようにしています。また、伝え合う際の状況を想定して、話す内容に合わせて即興的に分かりやすく伝えられるよう、必要に応じて提示する資料を準備するよう促しています。



限られた時間内で島田さんが知りたいことと、自分が伝えたいことを話すために、優先順位を考えて、メモの内容をもう一度整理してみました。

17.8% 17.3%

3

- 1 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという事実を、具体例を示しながら述べている。
- 2 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。
- 3 **おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという事実を、具体例を示しながら述べている。**
- 4 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという事実を、具体例を示しながら述べている。

藤田さん 私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。

藤田さん そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。③のこのあたりにはどのような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

今井さん 私は、図書館や書店で本を選んで、読みたい本を見付けるのには時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味を広がる感じています。

藤田さん 図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が広がるような状態にはならないでしょうか。

山岡さん そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している他の読者の目によって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますが、おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

山岡さん フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

フィルターバブル現象

自分の好み情報だけに囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

(文部科学省ウェブページによる。一部改変。)

【解説】
インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好み情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。
例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

山岡さん 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている情報に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん 【解説】の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

この問題の正答は選択肢3ですが、正答率が44.4%と低く、他の選択肢を選んでしまった児童が各選択肢で17%以上います。どのような点が課題なのでしょう。

20.0%

相手の考えを理解したり、自分の思いや考えを表現したりするためには、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報との関係について理解していくことが大切です。次のような授業アイデア例を参考に日常の授業改善をしてみましょう。

授業アイデア例

話し合いをする(「エコーチェンバー現象」)

～話し合いの話題や展開を捉えながら、発言を結び付けて自分の考えをまとめる～

エコーチェンバー現象

同じような意見が、閉ざされた空間の中で反響して大きくなっていく現象。

【解説】
SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などで、自分と同じ趣味をもつ人や似たような考えをもつ人とばかりつながっていると、同じような発言に繰り返し触れ、あたかもその意見だけが正しいという思いにとらわれてしまう。このような、特定の意見や思想が、閉ざされた空間の中で反響して大きくなっていく状態のことを「エコーチェンバー現象」という。

【話し合いを踏まえた自分の考え】の例のまとめ方について、よさや課題点を出し合う。

⑥ 【話し合いを踏まえた自分の考え】の例のまとめ方について、よさや課題点を出し合う。【生徒の発言の例】

一つ目の例は、エコーチェンバー現象の【解説】を踏まえて自分の考えをまとめているんですね。

そうですね。資料を基にして話し合ったことで、エコーチェンバー現象の特徴がよく分かったということが伝わってきます。でも、どのような影響があるのかについては、あまりよく分かっていない感じがします。

二つ目は、誰の意見によって理解が深まったかが分かりますね。資料からだけでは、はっきりと分らなかった問題点が、話し合いによって理解できたということですね。でも、エコーチェンバー現象のどんな影響を受けないようにしようと思ったのでしょうか。

話し合いの中で「エコーチェンバー現象の影響にはどのようなものがあるのか」について、もっと具体的な話が出てきていたと思います。自分の考えをまとめるときに、話し合いで出てきた具体的な内容を踏まえると、考えがより深まるのではないのでしょうか。

話し合ったことを基に、自分の考えをまとめる。

⑤ 前時の学習を振り返る。

前回答さんは、エコーチェンバー現象の影響にはどのようなものがあるのかについて話し合い、話し合いを通じて考えたことをまとめました。ワークシートに示した例について、話し合いの話題や話し合った内容を踏まえて考えがまとめられているかを確認してみましょう。

【ワークシートの例②】

【話し合いを踏まえた自分の考え】の例

エコーチェンバー現象は、自分と同じような考えに繰り返し触れることで、その意見だけが正しいという思いにとらわれてしまう状態のことだと知りました。私たちの生活の中でもこの現象が起きているようなので、気を付けたいと思います。

〇〇さんの意見を聞いて、エコーチェンバー現象の問題点が具体的に分かりました。エコーチェンバー現象の影響を受けないようにしたいと考えが変わりました。

前時に生徒がまとめた【話し合いを踏まえた自分の考え】を受け、生徒の実態に応じて、意図的に例を示す。ここでは、話し合いの中の誰の発言と結び付くかが明確でないもの(解答類型3)と、話題とのつながりが具体的なでないもの(解答類型4)を取り上げている。

話し合ったことを基に、自分の考えをまとめる。

【話し合いを踏まえた自分の考え】の記入例

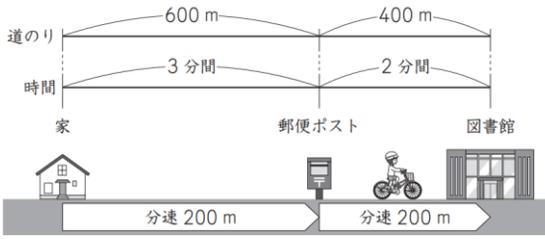
エコーチェンバー現象は、自分と同じような考えに繰り返し触れ、その意見だけが正しいという思いにとらわれてしまう状態のことなので、もの見方が狭くなったり偏ったりすると思います。〇〇さんが言っていたように、いつも同じメンバーで話すのではなく、いろいろな人と関わって様々な考えに触れることを心掛けたいと思います。SNSではなく、顔を合わせて話すことも大切にしたいです。

【本授業アイデア例のポイント】

意見とそれを支える根拠がどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることができるよう、話題を決めて互いの考えを伝えるなどして話し合う際に、意見とそれを支える根拠を示して発言することができるかなど、発言を振り返る学習活動を位置付けています。

問題 4 (3)

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。
 郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。
 家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。
 答えを書きましょう。

解答類型と反応率

解答類型	反応率 (%)	正答
1. 200 と解答しているもの	54.4	◎
2. 400 と解答しているもの	24.3	



この問題の正答は選択肢1ですが、選択肢2のような2つの速さの数値を安易に足してしまっている児童が24.3%います。

○ 速さが変わらないとき、道のりは時間に比例している。

時間 (分)	1	2	3	4	5
道のり (m)	200	400	600	800	1000
速さ	分速200m	分速200m	分速200m	分速200m	分速200m

「速さ」及び「割合」の理解を深めるためには、二つの数量関係を表に表し、「速さ」及び「割合」が変わらないとき、二つの数量の関係が比例の関係にあることを確認できるようにすることが大切です。

次のような授業アイデア例を参考に日常の授業改善をしてみましょう。



授業アイデア例

「家から図書館までの自転車の速さを考えよう」

～道のりと時間の関係に着目し、問題場面や図、式を関連付けて、求めた速さの妥当性を検討する～

① 問題場面を把握し、求めた速さを式に表す。

家から図書館までの自転車の速さは分速何mですか。

どちらなのでしょう。問題場面を図に表しましょう。

分速400mだと思います。 分速200mではないでしょうか。

分速1000mだと思います。

どのように考えましたか。自分の考えをノートに書きましょう。

【本授業アイデア例のポイント】

求めた速さや求め方を式に表し、速さの意味を考えることができるような学習活動を設定しています。

② 道のりと時間と速さを図に表し、求めた速さの妥当性を検討する。

分速1000mの考え

$600+400=1000$
だから、分速1000m

分速400mの考え

$200+200=400$
だから、分速400m

分速200mの考え

$1000 \div 5 = 200$
だから、分速200m

1000m→5000mになる

・1分間に1000m進む速さ
・速すぎる
・問題と合わない

1000m→2000mになる

・1分間に400m進むと全体が2000mになった
・問題と合わない

1分間に200m進む

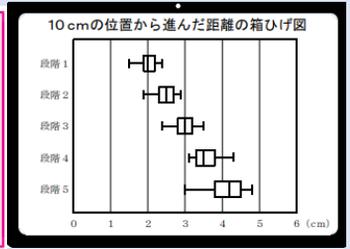
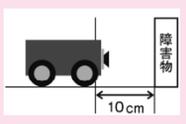
・1分間に200m進む速さ
・問題と合う

【本授業アイデア例のポイント】

速さの意味に基づいて、求めた速さなどを図に表して問題場面と比べ、求めた速さが妥当かどうかを判断する場面を位置付けています。

複数のデータ(箱ひげ図)を比較する場面はどのようにすればよいでしょうか。

前の時間には、車型ロボットの速さを段階1、障害物からの距離を10cmに設定し、設定した位置から進んだ距離を調べる実験を20回行いました。そのデータにばらつきがあったことから、最頻値や中央値などの代表値を求め、車型ロボットが進んだ距離について話し合いました。
さらに、車型ロボットの速さを変えたときに、10cmの位置から進んだ距離はどうなるのかを調べるために、段階1から段階5までそれぞれ20回ずつ実験を行い、データを収集しました。



表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断する場面では、その理由を数学的な表現を用いて説明できることが大切です。
次のような授業アイデア例を参考に日常の授業改善をしてみましょう。



授業アイデア例

「車型ロボットが進んだ距離について、データの分布の傾向を基に調べよう」
～データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断する～

1. 実験で得たデータの整理の仕方を考える。 [小学校第6学年] Dデータの活用
2. 5つの箱ひげ図を比較して、分かることを読み取る。 [第2学年] Dデータの活用
3. データの分布の傾向について批判的に考察し、判断した事柄の理由を説明する。

箱ひげ図から読み取ったデータ全体の分布の傾向から車型ロボットの速さを変えたとき、10cmの位置から進んだ距離についてどのような主張ができそうですか。

データの分布の傾向を捉える

車型ロボットの速さが速くなるほど、10cmの位置から進んだ距離は長くなる傾向にありそうです。

批判的に考察することを促す発問

先ほど挙げた箱ひげ図から分かったことのうち、その主張の根拠になりそうなものはあるでしょうか。

その結果を基に批判的に考察し判断する

最大値だけではデータ全体の分布の傾向を判断するのは難しいね。

箱の長さが長くなっていることから、中央値付近のデータの散らばり具合が大きくなっていることは分かるけど、進んだ距離が長くなる傾向にあることの根拠にはならないのではないかな。

判断の理由を数学的な表現を用いて説明するよう促す発問

最大値や箱の長さだけでは10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にあると判断することは難しそうですね。では、何を根拠として挙げればよいでしょうか。

判断した事柄について根拠を明らかにして説明する

箱ひげ図の箱の位置が右にずれていっていることはどうかな。
第1四分位数と第3四分位数の両方がそれぞれ大きくなっているということになるね。

箱ひげ図の箱をみることは、中央値を中心とした全体の約半数のデータをみることになるね。

主張と根拠について整理する

私は中央値だけでみていたけれど、中央値だけでみるよりも箱の位置で判断した方がいいね。

【本授業アイデア例のポイント】

主張とその根拠について整理しましょう。

主張
速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

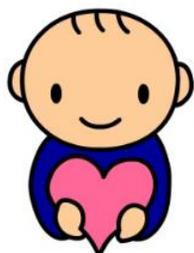
根拠
速さがだんだん速くなるにつれて、
・箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっているから。
・第1四分位数と第3四分位数が大きくなっているから。

複数のデータの分布の傾向を比較する際に、代表値だけでなく、四分位範囲や四分位数、箱ひげ図の箱の位置などに着目して多面的に吟味し、批判的に考察することにつながる発問や学習活動を位置付けています。

4. 問題解決の過程を振り返る。

第4回 授業づくり研修会

同じ思いや悩みをもつ仲間と一緒に授業を構想しよう！



○上伊那会場 11月18日(月)
@伊那合同庁舎 14:00~16:45
○諏訪会場 11月19日(火)
@諏訪合同庁舎 14:00~16:45

特別支援教育の視点で

社会

子供が、社会的事象に興味・関心がもてない場合には…

理科

実験の手順や方法を理解することが困難であったり、見通しがもてなかったりする場合には…

国語

声を出して発表したり、人前で話したりすることへの不安を抱いている子供には…

外国語

1単語あたりの文字数が多い単語や、文などの文字情報になると、読む手がかりをつかんだり、細部に注意を向けたりすることが難しい子供には…

算数・数学

「商」「等しい」など、日常的に使用することが少なく、抽象的な言葉の理解が困難な場合には…

指導主事が一緒に考えます！

道徳

相手の気持ちを想像することが苦手で、字義通りの解釈をしてしまう子供に対しては…

音楽

多くの声部が並列している楽譜など、情報量が多くどこに注目したらよいか混乱しやすい場合には…

特別活動

学校行事の参加に強い不安感を抱いたり、戸惑ったりする子供には…

図画工作・美術

変化を見わけたり、微かな違いを感じ取ったりすることが難しい子供には…

生活科

みんなで使うものを大切に扱うことが難しい子供には…

技術・家庭科

学習に集中したり、持続したりすることが難しく、用具の使用に不安がある子供には…

保健体育

複雑な動きをしたり、バランスをとったりすることに困難がある場合には…



【申し込みはこちらから】

各校に研修会開催要項をお届けしていますので、内容をご確認いただき申し込みをお願いします。

つなげようひろげよう



November 9th, 2024

English Camp in 総合教育センター

英語を話してみたい！英語で学んでみたい！

「学校で学んだ英語を使ってみたい」「英語が好き」「いつか海外に行ってみたい」、と思っている皆さんの参加をお待ちしています

実施要項



対象者

県内小学校5・6年生及び中学校1～3年生、中等教育学校、義務教育学校に在籍し、英語に興味・関心のある児童・生徒。

募集人数

小学生15名、中学生15名 計30名程度

参加費

プログラム参加費は無料、保険料（百円程度）のみ受付でお支払いいただきます。

会場

長野県総合教育センター（塩尻市片丘南唐沢6342-4）

参加方法

- ① 下記URLまたは二次元バーコードから申込
<https://forms.gle/SQLAWQUmNZJb4Tyn8>
- ② 自動返信メール案内
- ③ 県教育委員会から学校・本人宛通知の送付
- ④ 当日参加
- ⑤ アンケートへの回答

申込み用フォーム



10月7日（月）から10月30日（水）まで

留意点

参加希望者が定員を上回った場合は、地区や学年のバランスを踏まえ参加者を決定します。

詳細は上記二次元バーコードから、募集要項をご覧ください。

問合せ

学びの改革支援課義務教育指導係（藤森・武井）

電話 026-235-7434（直通） 電子メール kyogaku@pref.nagano.lg.jp